

藍染め関連資料（井筒屋染工場）

筒描藍染めは、布地に糊筒で紋や模様を描き、これを藍染めするものです。染めることで強くなり、洗えばいっそう色が映えてくるという特徴があります。明治・大正時代までは、嫁入り支度や孫ごしらの品として布団、子負い帯、幟などに染めあげられ、出雲地方の特産品として栄えました。

井筒屋染工場は1810年代に開業して以来、古くからの藍染めの伝統を四代、約170年間にわたり守り続けてきました。しかし、惜しまれながらも昭和59年に廃業され、その藍染め資料は一括して出雲市に寄贈いただきました。



あいだま
藍玉



みほんちょう
見本帳



せんしよくようぐ
染色用具（糊筒・刷毛・糊落し・糊伸ばし）



したえ
下絵（鶴）



かたがみ
型紙（竹に雀）



ゆあ
筒描紺染分松竹梅文 湯上げ

出雲市では昭和20年代から近年に至るまで、市民の皆様のご厚意により寄贈いただいた約700点の民俗資料（民具）を所蔵しています。

民具とは、庶民の生活に根ざしたすべてのものを指し、特別高価なものでも特殊なものでもありません。しかし、私たちの祖先が生活するために必要なものとして生まれてきたものであり、これらからは人々が如何に生活してきたのか、その努力のあとをかいま見ることができます。

また藍染め関連資料は、市内井筒屋染工場（浅尾染物店）から寄贈いただいた貴重な資料で、全国的にも第一級の価値を持つものです。

ここでは数多くの資料の中から、代表的なものを紹介しています。

くらしの中の技と知恵

— 筒描藍染めと出雲の民具 —

出雲市

服物・袋物・化粧用具



木綿茶地鯉裾模様 着物



筒描浅黄染紋付吉祥文 風呂敷



鏡台

炊事・保存・加工用品



銅 壺



湯桶・飯器・しゃもじ



飯椀・汁椀・壺椀・大平椀・皿



湯呑み

寝具・灯火用具



ふなごまくら 船底枕



ゆみばりちょうちん 弓張提灯



てあぶり 手焙



夜着

農耕・製糸用具



すき 犁



唐箕



座繰 繰



実繰 繰